©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

ノーベル賞

「化学」英の女性

物理学は米ソ三教授

【ストックホルム二十九日AP＝共同】一九六四年度のノーベル物理学賞はソ連のニコライ・バーソフ、アレクサンドル・プロホロフ両教授および米マサチューセッツ工科大学のチャールズ・タウンズ教授に決定した。

三教授はメーザー・レーザー原理を基礎にオッシレーター、増幅器の製作につながる量子エレクトロニクスの分野の基礎研究での業績にたいして受賞した。賞金の二十七万三千クローネ（約一千九百万円）の半分をタウンズ教授、残り半分をバーソフ教授、プロホロフ教授が分けることになる。

【ストックホルム二十九日ロイター＝共同】一九六四年ノーベル化学賞は英オクスフォード大学サマービル・カレッジ教授のドロシー・クローフットホジキン夫人（三四）に贈られると二十九日発表された。これは同教授の"重要な生化学物質の構造にかんするエックス線技術による諸決定"にたいして贈られたものである。

婦人でノーベル化学賞を受けたのは一九二一年のキューリー夫人、三五年にその娘イレーヌ・ジョリオ・キューリーが受賞したのに次いで三人目である。

▽**タウンズ教授**＝一九一五年米南カロライナ州生まれ、三九年カリフォルニア工科大学卒後、ベル電話研究所員、コロンビア大学教授を歴任、六一年からマサチューセッツ工科大学教授。五六年にはフルブライト基金による講師として来日した。

▽**バーソフ教授**＝一九二二年生まれ。モスクワ大学卒後、四八年からレベデフ研究所にはいった。ソ連科学アカデミー会員。

▽**プロホロフ教授**＝一九一六年生まれ、レニングラード大学卒後、レベデフ研究所にはいる。五九年にはレーニン賞受賞、科学アカデミー会員。

【注】三教授が研究しているメーザーとはマイクロ波の誘導放出を利用した増幅器という英語のかしら文字をとって名付けられたもので、宇宙通信、電波望遠鏡には不可欠のもので、原子核の回りを回る電子の軌道を人為的に変えることで吸収、増幅、発振を行なわせるもの。メーザーのあとでマイクロ波でなく光りを使って増幅、発振させる"レーザー"が開発された。レーザーの光りは普通の光りと違い波の位相が電波のようにそろっており、指向性が高いため、殺人光線として使うこともできる。

▽**クローフットホジキン夫人**・一九一〇年生まれ。英結晶学者。オックスフォード大学サマービル・カレッジ卒、三五年に同教授となる。王室協会ウルフサン研究所教授。オランダ王立科学アカデミー、米科学アカデミー会員。ふたりのむすこと娘さんひとりがあり、夫君は歴史学者のトーマス・ホジキン氏。夫君のいとこA・L・ホジキン教授は六三年度のノーベル医学賞を受けている。クローフットホジキン教授の研究は生化学、医学上に重要な意義をもっており、とくにペニシリン、ビタミンB12にかんする研究が注目を浴びている。

バーソフ教授

タウンズ教授

プロホロフ教授

湯川博士が中間子の存在を理論的に予想したのは一九三五年。その後、各国の学者によってその存在が実験的に裏付けられ、今日の素粒子論が築かれる上で、大きな力となってきた。たまたま、来年は高エネルギー物理学の国際会議が日本で開かれることになっており、素粒子論の発展に寄与した"湯川中間子論"の記念をかねて、日本学術会議と京大基礎物理学研究所の共催で開かれることに

湯川博士

ハイゼンベルグ教授

パウエル教授

マルシャック教授

ストル大のC・F・パウエル教授、仏アカデミー会員のド・ブロイ博士、デンマークのL・ローゼンフェルド教授、米のR・E・マルシャック教授、G・チュウ教授ら、ノーベル賞学者を含む世界のトップクラス二十人を予定。国内からは湯川博士をはじめ、朝永振一郎、

c073-001-010

c073-001-011